

★ アンケート回収数は、児童353名、ご家庭96戸、教職員27名である。
 ★ 回収したアンケートのうち、評価項目によっては無回答や「E:状況が分からず、評価が難しい(評価できない)」の場合もあったため、「評価(A~D)」は集計した実数ではなく、割合(%)で示している。
 ★ 「平均」、「総評(総合評価)」は、比較しやすいように4点を最高として示している。《平均》(4点×Aの回答実数 + 3点×Bの回答実数 …) ÷ 回答総数

1 知恵いっぱい (学び)

(A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない)

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント(成果と課題、次年度への改善策等)	学校運営協議会委員によるコメント 4点(最高) ・ 3点 ・ 2点 ・ 1点(最低)
		対象	A	B	C	D	平均		
1	先生たちは、一人一人の児童に対して分かりやすい授業を行っている。	児童 保護者 教職員	29 52 28	55 46 68	13 1 4	3 1 0	3.1 3.5 3.2	生徒指導に多くの時間を費やす中で、放課後や始業前に教材研究を行い、授業を進めている。学年での相談を密に行い、厳しい現状の中で、「一つ一つの授業を成り立たせるためにどうするか。」「基本的な学習習慣をどう身に付けていくか。」を検討しながら、授業を行うことができた。しかし、諸調査の結果を見ると、学力が十分に身に付いているとは言い難い。今後、諸調査の結果分析をもとに、学年で焦点化した取組を進めていく。次年度も、生徒指導の充実と基本的な学習習慣の定着を中心に、組織的な取組を進めていく。 昨年度と比較すると、児童は0.1P低くなっている。しかし、「D:全くあてはまらない」の項目が10%から7%に減っているため、底上げが図られた結果だと言える。保護者と教職員の評価は昨年度と同じになっているが、D評価が0となっており、保護者の意識の高まりと学校の指導が生かされた結果と捉えることができる。 昨年度と比較すると、児童は0.2P高くなっていて、保護者と教職員の評価は昨年度と同じ数値である。日頃の教師の関わり方の工夫や児童の頑張りへの称賛、「めあて・ふりかえりの明確化」など全校統一した取組の成果だと考える。 昨年度と比較すると、児童、保護者、教職員とも数値は変わらなかった。教師が各学級で貸出の時間的余裕が見いだせず、適切な手立てをとることができなかった。学校図書館の使い方の指導を含め、今後有効活用を図る手立てを考えていく。	3.1
2	先生たちは、学習中の姿勢や発表の仕方等、望ましい学習習慣の定着のために、適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	22 58 12	47 39 76	24 3 12	7 0 0	2.8 3.5 3.0		○ コンピュータの活用や色々な教材を活用した授業が見られる。今後ともインターネット等をフル活用した最先端の指導方法に期待する。 ○ 保護者の意識の高まりが感じられます。特に、家庭学習に関しては、児童や保護者から高評価を得ており、先生方の取組に頭が下がります。うれいすね。 ○ 保護者は、その子に教育について第一義的責任を有するものであるため、そこでの言葉のやり取りを優しく大事に続けてもらいたいと思います。 ○ 生徒指導に労力をとられ、学習指導にかける時間・労力が不足しているように見受けられる。 ○ 家庭内での読書習慣が大切になってきます。土・日・祝日に門川町立図書館を利用し、たくさん本にふれていくことを希望します。 ○ 先生たちが児童の学力向上のために日々努力していることに対して感謝しかない。ただ、現状として生徒指導に時間をかけざるを得ないのが苦しいところであると考える。保護者がもっと状況を理解し、協力するよう仕向けてもよいのではないかと。 ○ 授業だけでなく、生徒指導にも多くの時間を費やさなければならない先生方の負担を何とか減らす必要があると思う。児童が授業についていけるよう、低学年のうちから望ましい学習習慣の定着を学校だけでなく、家庭でも取り組めるようにしていきたい。 ○ 学力については、向上しているとは思いますが、学力テスト等で、全国平均に対してどのくらいの差があるのか知りたいと思いました。算数・数学は、「理論的な思考を育てる」学問だと聞いています。今の門川小の児童に必要なことだと思います。「算数が大好きな子がたくさんいる門川小学校」等のテーマで取り組むとよいのではないのでしょうか。「英語(・英会話)」もありかと思ひます。
3	先生たちは、宿題やがんばるノート等、日々の家庭学習への適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	63 67 23	24 28 59	9 5 18	4 0 0	3.5 3.6 3.0		
4	先生たちは、本に親しませ、読書習慣を定着させるため、適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	42 44 18	27 43 50	21 13 27	10 0 5	3.0 3.3 2.8		

2 心いっぱい（豊かな心）

	評価項目	評価						学校の自己評価のコメント(成果と課題、次年度への改善策等)	学校運営協議会委員によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均		
5	先生たちは、元気なあいさつや会釈、返事、靴(トイレのスリッパ)並べ、正しい廊下歩行等、家庭と連携して、基本的な生活習慣の定着に向けて取り組んでいる。	児童 保護者 教職員	33 54 23	45 40 65	19 6 12	3 0 0	3.1 3.5 3.1	3.2	<p>3.0</p> <p>○ 個別の生徒指導等については、家庭内の保護者(特に母親)の影響が大きいと思う。少年団活動等以外にもスポーツ等を通じた指導により精神鍛錬に特化した活動への誘導ができないものかと考える。そのためにも、保護者向けの「精神鍛錬」に関する講習会等の開催はできないものか。</p> <p>○ 12月から全校一斉に始めたPBISの継続的な取組に、期待します。</p> <p>○ あいさつ、靴、スリッパ、自分の部屋の片付け等は、一つの躰であり、家庭できているかが、児童の基本的な生活習慣の定着の鍵になるかと思っています。</p> <p>○ 「6」の項目で、児童の評価が低くなっているのが気になる。安心して学習できる環境づくりを期待します。</p> <p>○ 履き物の整理整頓は、気付いたときにそれぞれ整えることの習慣が付くことを願います。また、良い行動を認め合い、褒めて伸ばしていくことが一番大切に感じます。児童の自信につながります。</p> <p>○ 全てにおいて個人差があることは仕方がないことではあるが、手本になるべき高学年の児童の自己評価がどうだったのかが気になる。評価と実態があってなければ、改善の必要があるのではないかと。</p> <p>○ 参観日等で学校を訪問する度に、人や物を大切に扱わない子どもたちの現状を知る。先生生方が一生懸命してくださっている中、児童の評価「D」がどの項目にもあることが残念でたまらない。豊かな心が育つために何か良い手立てがないか、本気で考え、取り組みたい。</p> <p>○ 「わたしたちの思いを語る会」で、門川小の発表を聞きました。小学校の児童みんなに聞いてほしいと思いました。掃除をきちんとする、トイレのスリッパをきちんと揃える等の基本的なことをきちんと伝えることで、児童の生活態度は変わります。掃除を毎日するのは、難しいのでしょうか？</p>
6	先生たちは、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに組織的に取り組んでいる。 ※PBIS・・・「Positive Behavioral Interventions and Supports (ポジティブ行動支援)」の略称で、望ましい行動を強化し、問題行動を予防・減少させるための包括的なアプローチ。ポジティブな行動支援。簡単に言うと、子供の問題行動を「罰」で直すのではなく、適切な行動を「教え、褒めて伸ばす」予防的な学校・学級運営の手法。ルールを具体的に提示し、良い行動を認め、全教職員で一貫して指導することで、安心できる環境をつくる。	児童 保護者 教職員	43 51 31	38 36 65	14 13 4	5 0 0	3.2 3.4 3.3		
7	先生たちは、児童の自主性を伸ばしたり、自己肯定感を高めたりする活動に取り組んでいる。	児童 保護者 教職員	43 48 27	35 45 61	16 6 12	6 1 0	3.2 3.4 3.2		
8	学校は、無言清掃が定着し、環境美化が行き届いている。	児童 保護者 教職員	39 21 19	43 48 73	14 28 8	4 3 0	3.2 2.9 3.1		

3 汗いっぱい (健康・安全)

	評価項目	評価							学校の自己評価のコメント(成果と課題、次年度への改善策等)	学校運営協議会委員によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均	総評		
9	先生たちは、運動に親しみ、体力向上をさせるための適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	63 51 4	24 44 62	8 4 30	5 1 4	3.4 3.4 2.7		<p>昨年度と比較すると、教職員の評価が0.2P低くなっている。新体力テストの結果を見ると、昨年度と同様、シャトルランの記録が低い。また長座体前屈の記録も低下している。そのため授業の導入で5分間走を取り入れたり、なわとびカードを用いた活動を行ったりして、児童の体力向上を目指している。昼休みは、なるべく運動場に出るように各学級で呼びかけ、体を動かすようにしている。今後も、体育科の学習だけでなく、児童が進んで運動に親しむ機会を設けていく。</p>	3.0
10	先生たちは、生活リズム(メディアの適切な利用、早寝・早起き・朝ご飯)を身に付けさせるために、家庭と連携した適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	38 35 8	39 46 59	17 19 29	6 0 4	3.1 3.2 2.7	3.2	<p>昨年度と比較すると、児童、保護者、教職員の評価が0.1Pずつ低くなっている。今年度は、ノーメディア読書デイを実施する前に、4～6年生を対象にし、メディアに関する講話を聞く機会を設けた。また、毎月「ノーメディア読書デイ」を設定し、意識啓発に努めた。次年度もメディアの使い方を含めて、生活リズムが身に付くように、家庭に情報発信をしていく。</p>	<p>○ 様々な報道・情報により、災害や交通事故へ対する意識づくりは醸成されていると思うが、一人の人間としての心がけをより一層創り上げ、それに合わせた身体づくりも大事であることから、重ねて進めたい。</p> <p>○ 避難訓練について、低学年は本番のように動いていました。高学年はそれなりにでしたが、いざとなったら動ける基本が身に付いていると、参加したことで実感し安心しました。</p> <p>○ (なし)</p> <p>○ 先生たちの評価が低くなっており、指導に苦勞しているように感じられるので、門川小学校だけでなく、他校の事例も参考にして指導方法を検討してほしい。</p> <p>○ 家族間で朝6時30分のラジオ体操の取組に挑戦し、早起きの習慣や朝ご飯のリズムが身に付くようにすることも一つの策と思います。また、地域で取り組んでいる避難訓練・防災訓練に家族揃って参加することが、一番の意識付けになり、下級生を守っていく姿勢が自然と生まれ、学校で行う訓練が生きてくるのではないのでしょうか。</p>
11	先生たちは、給食指導や弁当の日の実施等、望ましい食習慣の定着に向けて、家庭と連携した適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	49 45 8	37 47 71	11 8 17	3 0 4	3.3 3.4 2.8		<p>昨年度と比較すると、児童の評価が0.1P、教職員の評価が0.2P低くなっている。保護者の評価は、同じである。今年度も給食センターの先生方による給食時間の各学級巡回や給食試食会を実施し、保護者の協力を得ながら弁当の日を年3回実施した。次年度も給食の大切さを知ってもらうために、給食試食会の継続と弁当の日の取組に関する啓発を行っていく。</p>	
12	先生たちは、避難訓練や交通安全教室を通して、危険から身を守る態度の育成について、適切な手立てをとっている。	児童 保護者 教職員	51 55 21	30 43 71	15 1 4	4 1 4	3.3 3.5 3.1		<p>○ 避難訓練 昨年度と比較すると、児童の評価が0.3P、保護者の評価が0.1P、教職員の評価が0.1P低くなっている。今年度の下校時避難訓練では、児童自身が、どの避難場所に向かうべきか判断し、避難した。本校校舎3階へ直上避難を行ったり、門川高校生とクイズ形式による防災学習を行ったりしたことで、防災意識を高めることができた。しかし、避難の際の私語や真剣さの欠如が見られる場面も多々あり、自らの命を守るという目的を意識することができていないように感じるがあった。次年度は、児童が目的をもって訓練に参加することができるよう、計画的に実施・指導していく。</p> <p>○ 交通安全教室 児童、保護者、教職員の評価は、減少した。今年度は、地域の方から、下校中、縁石の上を歩く児童がいることや、後ろから車が来ても避けない児童がいることなど、心配していただく連絡があった。その都度、指導を行っているところではあるが、今後も継続して指導を行っていく。昨年度、地域の方から、自転車の乗り方が心配であるとの声をいただいていたが、本年度はそのようなことが少なくなっている。今後も安全指導を継続し、下校時の見守りや交通安全教室の在り方を工夫し、児童の安全の意識を高めていく。</p>	<p>○ 「9」「10」「11」の先生たちのA評価が少ないのが気になる。生徒指導の結果が出ていないのではないのか。これは、学校というよりも、家庭の問題だと思われる。学校としては立派に対応していただいていると思う。もっと、評価して良いと思う。</p> <p>○ 子どもたちのためにいろいろな取組をしてくださり、ありがとうございます。せっかくある「ノーメディア読書デイ」ですが、子どもたちの頭の中には、読書<ゲーム・メディアになっているような気がします。高学年になると、習い事も多忙になり、子どもとゆっくり話す時間も限られるようになりまして。小学生でも携帯電話を持つのが当たり前になっている中、メディアの使い方について話したり、コミュニケーションをたくさんとる機会を多くもちたいです。</p> <p>○ 体力低下、運動不足等があるのでしょうか。ノーメディアについても、読書をする等の取組は大事だと思います。保護者の理解がとて大切で。交通安全については、自転車に乗るとき、ヘルメットを付けている児童は少ないです。とは言いながら、大人が付けていないので、改善していきたいと思います。</p>

4 キャリア教育、時間外勤務縮減、校務のデジタル化、情報発信 等

	評価項目	評価							学校の自己評価のコメント(成果と課題、次年度への改善策等)	学校運営協議会委員によるコメント
		対象	A	B	C	D	平均	総評		
13	先生たちは、地域の人材を生かしたふれあいや体験活動を積極的にを行い、キャリア教育の充実に取り組んでいる。	児童 保護者 教職員	47 60 17	37 34 50	12 6 25	4 0 8	3.3 3.5 2.8	3.2	<p>昨年度と比較すると、児童の評価が0.3P、教職員の評価が0.4P低くなっている。保護者の評価は、0.1P高くなっている。1年生は、高齢者との昔の遊び体験活動、2年生は、地域の方々のサツマイモの栽培活動、3年生は地域の方々による算数授業支援・毛筆書写の学習支援等、4年生では、地域学校協働活動本部による乙島体験活動や門川高等学校生徒による防災学習への協力、5・6年生では門川ヘルスメイトによる調理実習や地域の方々によるミシン使用の協力、全校では避難訓練事前説明における門川高等学校生徒の協力、避難訓練への地域の方々の協力等を得ることができた。加えて、本年度からオープンスクールにおいて地域の人材や素材を活用した授業を公開したことにより、各学年で更に地域との連携した取組が充実してきた。また、地域学校協働活動推進員のおかげで、外部との連携を円滑に図ることができた。児童の郷土愛、職業観等を高めることができるよう、今後も工夫・改善を加えながら継続して取り組んでいく。</p>	3.2
14	先生たちは、勤務時間内(8:00~16:30)に無理なく効率的に仕事を進め、児童としっかり向き合っている。	児童 保護者 教職員	37 57 15	42 32 50	16 6 35	5 5 0	3.1 3.4 2.8	3.1	<p>今年度から新設した評価項目である。先生たちは、児童の悩みや心配ごとの相談、学校内外の児童に関する諸問題の解決等に一生懸命である。そのため、学習指導方法の研究や事務作業が勤務時間外になってしまうことが多い。今後は、学校運営協議会等での議論を経て、優先順位を定めながら「学校以外が担うべき業務」「教師以外が積極的に参画すべき業務」「教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務」の観点で、学校と教師の業務を不断に見直していく。</p>	3.1
15	先生たちは、ICTを活用して授業をしたり、マチコミを活用して連絡が確実に保護者へ届くようにしたりする等、効果的で効率的な教育・運営に取り組んでいる。	児童 保護者 教職員	47 57 21	33 36 58	14 7 17	6 0 4	3.2 3.5 3.0	3.2	<p>今年度から新設した評価項目である。パワーポイントや動画を活用して授業をする教師が増えてきており、AIを駆使して授業をする教師もいる。児童が楽しく学習に取り組めるよう、ICTの効果的な活用に関する研修等を行っていく。マチコミメールを活用して、学校参観日の案内文書等の学校全体の文書や学年の連絡を適宜送信し、保護者へ連絡が確実に素早く届くよう工夫している。</p>	3.2
16	学校は、教育目標や課題、必要な情報等を、PTA総会や学年・学級懇談会、通信等を通して、分かりやすく発信している。	児童 保護者 教職員	— 55 42	— 40 50	— 5 4	— 0 4	— 3.5 3.3	3.4	<p>昨年度と比較すると、保護者が0.1P上昇している。本年度も、全教職員が分担してホームページの記事を書いた。「校長室通信」は月1回、校長の学校経営に関わる内容や考え等を、「びろうじま」も月1回、児童の頑張りや地域連携の様子等を中心に保護者や地域に伝えることができた。学年・学級通信も、定期的に発行し、学年・学級の様子や教師の考えを伝えることができた。また、学年保護者会を開催したり、学級懇談会後に希望個人面談を設定したりして、保護者と共通理解・共通実践していきたいことを提案したり、話し合ったりできた。</p> <p>課題は、保護者へのアンケートの回答・回収にURLや二次元コードの活用を図ったが、回収率が高いとは言えなかった。次年度は、アンケートを配付したことや、回収締切日前日であることを確実にマチコミメールで知らせしていく(マチコミメール自体を使ってアンケートの回答・回収は契約上できない。)。また、児童の健全育成について、保護者と一緒に解決すべき課題については、個別に校長・教頭・生徒指導主事・学級担任等との話し合いの場を積極的に設けたり、学校としての指導方針を全家庭に示したりして、より一層の連携・協働に努めていく。</p>	3.4

3.2

○ 昨今の状況をみると、児童の将来に向けた情報発信は、早め早めに行われていることは、世の中の仕組や仕事内容をそれぞれの機関の参画により得られることを考えると、実情にあっていると思われる。また、保護者へのLINE等による発信(全体的及び個人的にも)を積極的に活用し、学校情報の発信を進めてほしい。

○ 地域学校協働活動推進員のお二人のお陰で、充実した地域連携活動の内容です。また、子どもや大人を惹きつけるAIの活用も期待します。

○ (なし)

○ 「13」「14」の項目で、先生たちの評価が低くなっているため、地域や家庭の協力・理解が足りていないと思う。

○ (なし)

○ 児童の授業を受ける態度がもっと良くなれば、全ての評価が上がっていくと思う。全ての評価を上げるためにも、家庭への情報発信及び協力の呼びかけをお願いしたい。

○ 地域の人材を生かしたふれあいや体験活動を、今後も積極的に取り組んでもらえるとありがたいです。今後の活動体験の1つとして、小学生が幼稚園や保育園を訪問する活動を取り入れるのはどうでしょうか。生活科の「町探検」や幼保小連携の一環として園児と交流することで、年下を思いやる心も育まれるのではないかと思います。先生方の負担が少しでも軽くなるよう、業務の見直しは賛成です。

○ 地域の方を講師に呼んだ取組は、とてもよかったと思います。講師調整大変だったと思います。学校運営協議会の研修であった「ワークライフバランス」の取組がとても効果があるように思います。ICTを活用したペーパーレス活動は、先生方の負担軽減になるかと思っています。

5 その他(学校運営協議会委員より)

- 課題を抱えている児童への対応は、保護者も含めた親子指導を学級、学年、生徒指導主事の複数人対応で強く指導することにより、中学校進学時に門川小学校卒業者の品位向上に努めてもらいたい。また、積極的にそれらの児童をスポーツ(少年団活動)等への関心付けを薦めると良いのではないかな。
- 教職員が心身ともに児童と向き合っていたらいいと思います。児童が感動するような場面を見せ続けてください。校舎内も整備され、美しかったです。どの児童も大事に思っておられる姿勢に胸が熱くなりました。この数年で、門川小学校の素晴らしさを知りました。私たちにできることがあれば、お手伝いさせてください。応援しております。
- 「知恵いっぱい」「心いっぱい」「汗いっぱい」、児童に負けないように、私も頑張りたいと思います。
- 全体的に、昨年度と比較して評価が下がっている項目が多いように感じられる。生徒指導に時間が割かれ、それ以外の指導の時間が減っているのかもしれない。先生たちの負担を軽減し、指導に注力していただくためにも、家庭や地域の協力が必要だと思う。
- (なし)
- ほとんどの項目で保護者の評価は高い。先生たちの頑張りが伝わっている証拠であると思われる。だからこそ、もっと保護者に協力をあおいでもよいのではないかな。
- いつも子どもたちがよりよい学校生活を送れるよう、丁寧なご指導ありがとうございます。現在、学校だけでは抱えきれない課題が増え、先生方は昔に比べ、やりにくさや負担がとて大きく感じているように感じます。本来、家庭や地域で担うべき部分まで学校が担うことになっているので、私たちにできることがあれば協力し、学校がよりよくなってほしいと思います。
- 警察の方が講師となり、交通安全教室を開きましたが、とても受講態度が悪かったと聞いています。なぜ、まじめに聞かないのか、児童の本音が聞ける機会があるとよいかなと思います。

1 生徒指導の充実

- 組織的対応の充実（合い言葉による指導の推進、学年経営の充実、チーム支援の推進）や自主的・自治的活動の推進（学級会を中心とした学級活動の充実、SWPBS〔PBIS〕の定期的な実践、異学年集団交流の推進）、家庭・地域と連携した基本的な生活習慣の指導徹底（積極的な情報交換と協力依頼）を行う。
また、心の教育を充実させるために、「ハートフル門小」の定着（積極的な啓発や称賛活動、ソーシャルスキルトレーニングやアイスブレイク等の推進、ボランティア活動の推奨）や自己有用感高揚の工夫（「認める指導」の充実）に努める。

2 学習習慣の定着

- 門川「授業の5箇条」の徹底（年度当初の指導の徹底）や家庭との連携（学習用具の準備、家庭学習の習慣化）、読書活動の推進（隙間時間の読書推進、家読〔ノーメディア〕の推進、図書館〔学校・町立〕との連携）を行う。
また、基礎学力を定着させるために、「ひなたの学び」の推進（協働的な学習の推進）やICTの積極的な活用（校内研修の充実）、学力調査の活用と補充指導の充実（事前対策⇒結果分析⇒事後対策の充実、1校時前の「ひなたの時間」の充実）を図る。

3 防災・安全に係る指導の充実

- 防災教育の充実（地域連携の更なる推進、地区別集団下校の充実、下校時避難訓練の見直し）や危険回避能力の育成（安全な登下校指導の徹底、規範意識の醸成）を行う。
また、健康・体力づくりを推進するために、健康教育の充実（メディアコントロールに関する指導の充実、保健・衛生指導の充実、食に関する指導の充実）や体育的活動の充実（スクールスポーツプランに基づく実践、外遊びの推奨と全校児童で遊ぶ日の設定）を図る。

4 家庭・地域・関係機関との連携推進

- キャリア教育の充実と地域人材の積極的な活用（授業支援の拡充、オープンスクールの活性化等）や専門機関・相談機関等の積極的な活用と連携（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールサポーター、医師、門川町教育支援センター、門川町社会福祉協議会等）、コミュニティ・スクールの確立に向けた学校運営協議会の推進（柱①：防災教育、柱②：地域人材の活用）、学校の広報活動の充実（ホームページ、校長室通信、学校だより、マチコミメール、児童作品の新聞投稿等）を行う。